

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)－文字学に関する既存術語の再検討」

2021 年度第 2 回研究会

日時：令和 3 年 8 月 28 日（土曜日）午前 10 時 00 分より午後 16 時 00 分

場所：Zoom

報告者名（所属）

1) 荒川慎太郎（AA 研所員）

「西夏文字の「点」の出現条件再考」

(Once again, on the “Dot” in Tangut script)

はじめに、西夏文字研究のための術語を確認した。象形文字ではない西夏文字において、「点」はどのような機能を有するのか検討した。初めに考察で扱う「点」がどのような形であるのか定義した。次に、点を伴う「文字要素」が大きく 2 系統に分かれることを示した。2 系統とも、筆画の類似する文字要素が存在する。西夏文字の「点」は微細な筆画の違いを強調する、一種の符号であると結論付けた。

2) 全員

「企画展示に関する打ち合わせ」

(Discussion on the Exhibition to be held in November)

今回は、11 月に開催予定の「解説！アジアの古代文字」展の内容、展示品、展示品解説小冊子などについて、全員で検討した。

完全な Zoom 形式となったものの、12～13 時の休憩をはさんで、活発な議論が行われた。